

宿泊学習の中で 十勝のSDGsを学ぶ



「10勝アウトドアメイト」

私たちは十勝川で、ラフティング体験をしました。大きな岩があるコースはスリルがあっただけですが体験しやすかったです。水力発電所から放水された水に逆らって進むミッションでは、子供も大人も誰でも力を限



域の魅力が伝わりやすく、観光客の増加につながる自然豊かな上浦幌町の活性化になると思いました。(関口)

SDGsを推進するには 〜こう考えてみた!〜

今年度の学びを通して、浦幌町では、SDGsを推進するにはどのような方法があるのかを考えました。

1つ目は、砂浜に打ち上げられている海洋ゴミを生かした取組です。海には、人がポイ捨てしたポリブクロやペットボトルなどのプラスチック、それが紫外線や波によって細かくなったマイクロプラスチックなどが海洋ゴミの多くを占めています。実際に、昨年浦幌の厚内でのゴミ拾い体験でもプラスチックの多さが目立っていました。

このように考えをなくすため、海洋ゴミを生かしたネックレスなどのアクセサリーをつくることで、SDGsの取組にもつながり、環境を守ることができると考えました。

そして、アクセサリのデザインを魚の形や、浦幌町のキャラクター、うちはとほろまの形にすることで、沢山の人の手に取ってもらえるのではないかと考えました。

2つ目は、規格外野菜を生かした取り組みです。曲がっていたり、傷がついていたりなど販売できなく廃棄されてしまう野菜をチップスにすることで食材を余すことなく食べることができ、ヒタミンなどの栄養素を摂取

主張

私は、全校生徒からの承認をいただき、この後期から一年間、生徒会長を務めることになりました。立ち会い演説会では、

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

とめ、目立つ存在でも、ここぞというときに頑張っているという姿でした。それでも決意をして立候補し生徒会長になったので、私なりに「やるべきは、やる」を大切に頑張りたいと思っています。

その一つとして、「お互いを認め合える学校」にしたいと、演説の中

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

笑顔の学校に

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

とめ、目立つ存在でも、ここぞというときに頑張っているという姿でした。それでも決意をして立候補し生徒会長になったので、私なりに「やるべきは、やる」を大切に頑張りたいと思っています。

その一つとして、「お互いを認め合える学校」にしたいと、演説の中

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

とめ、目立つ存在でも、ここぞというときに頑張っているという姿でした。それでも決意をして立候補し生徒会長になったので、私なりに「やるべきは、やる」を大切に頑張りたいと思っています。

その一つとして、「お互いを認め合える学校」にしたいと、演説の中

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。



私の長所は、「みんなを笑顔に出来ること」だと思っています。だから、積極的に声をかけて、全校生徒を笑顔にしたいです。(松村)

2つ目は、規格外野菜を生かした取り組みです。曲がっていたり、傷がついていたりなど販売できなく廃棄されてしまう野菜をチップスにすることで食材を余すことなく食べることができ、ヒタミンなどの栄養素を摂取

「お互いを認め合える学校にしたい」と考え、生徒会の活動を通して、上浦幌中学校を明るく楽しい学校にしていきたい。「学校行事でも、全校生徒が楽しいと思えるような行事にしたい」と話しました。

まとめ

私たちは、このような取組を浦幌町でもできないのかを考えることが大切なのではないかと思いました。同じ取組ではなくても、もっと沢山の人が浦幌町の魅力を知ってもらえることができれば、SDGsにも貢献できるのではないかと考えました。

私たちは、この2年間で、SDGsについて深く学んできました。3年生ではこれらの学びを生かして十勝管外に目を向け、自然や未利用資源の活用について、中学生として何が出来るのかを修学旅行などを通して学んで行きたいと思っています。(松村)